

オリジナル御忌衣 頒価 10,000 円にてご提供中！

頒価でのご提供多数につき、限定50着製作のオリジナル御忌衣の残数は僅少でございます。

今後、追加製作の場合は、今回ご案内の頒価でのご提供ができない場合がございます。

是非に残着数僅少ご案内の今機会に、ご購入の決断を頂ければと存じます。



袖無し型／地紋入生地／胸白紐付・背中飾り紐付／正面左襟「一般社団法人 羽黒山伏会」
正面右襟「出羽三山 羽黒山伏会」会名入り／紺色(秋の峯)・紅色(神子)・白色(鍊成)の市
松模様別染地／背中央部に羽黒山伏の守護神「大唐獅子」紋柄染め／身丈 76cm 身幅 54cm

御忌衣製作の意図

神に祈るための神聖な式服として羽織る衣を「御忌衣（おみごろも・おみのころも）」と呼んでいます。本来、物忌み（断食や節制など）のしるしとされる清浄な上着で、大嘗祭・新嘗祭（いなめさい）などを司る小忌人（おみびと）や神官・女官などが装束の上に羽織るものでございます。

仏教伝来以前の古代日本民族の服装を継承したものと考えられ、袖の端を縫わず水引で結んでいるだけとか、文様が青草の汁をすりつけた「青摺（あおず）」である等の素朴さに自然を敬う神事感が見て取れます。

近年では、一般礼拝者も「ちゃんちゃんこ」のように洋服や着物の上から面倒なく羽織れるよう簡便化され、神社仏閣の例大祭などの行事で着用します。

特に当法人の会員の皆様の場合には、出羽三山への登拝時や出羽三山神社ご参拝時、当法人齋行の定例行事等へのご出席時の正装として着用することは勿論、今後、出羽三山神社の主な祭事行事に当法人会員として参列する機会が格段に増えて参りますこと間違いはございません。そして各会員在地の産土神社のご祭礼時、大江戸や仙台や福島や山形での羽黒山伏衆の勸進大祈願祭時、また関係する出羽三山講中等への集合時、更に他派修験道の霊山等への参詣時などと、御忌衣を着用する機会に枚挙の暇がございません。

斯様に神聖なる式服の御忌衣を羽織る機会が常態になりますことから、当法人が頒価にて提供する今機会に、御忌衣のご準備をお願いできればと存じます。